

カトリック六甲教会 2017 教会報 11 No.551

インターネット利用問題とキリスト教

第5回 心寂しい子を吸い込むメディア

群馬大学名誉教授 下田 博次

カトリック新聞（2016年9月11日）に、マザー・テレサが列聖されたとの記事があり、それを読んで私は「マザー・テレサの愛のことば(女子パウロ会)」の成句を思い出した。それは、「愛はまず家庭から始まるのです。愛は家庭に住まうものです。子どもたちは、家庭の中に愛やほほえみを見つけることができません。子どもたちは寂しすぎるのです。寂しさをまぎらわすために、外へ、さがし求めに行くのです。」

マザーの言う「外に」は、今日ではネットの交流の場に、と言い換えてもいい。家にいるのが苦しくなった子は「家出サイトやツイッターに」向かうが、そこには危険が待っている。思春期の少年少女だけではない。母が忙しくて、ほほえみを受けたくても受けられない乳幼児にさえも、ネットは「お相手サービス」を提供してくれる。テレビやラジオの時代から寂しい子はメディアに向かって行った。

例えば、テレビの普及がピークに達した1984年に「TVコマーシャル少女」なる新聞記事が話題になった。夫婦共稼ぎのため、乳幼児期からテレビを子守がわりに見せ続けられてきた少女が、幼稚園に入っても対面での会話ができない。話しかけられると緊張した面持ちで、呪文のようにテレビの宣伝文句をしゃべるだけで会話にならない。当時この子は情緒障害と判断され治療を受けたが、今日の医学の知見からすれば発達障害と診断されるだろう。



メディアと急増する発達障害のリスクの問題は、10年ほど前からしきりに取り沙汰されるようになったが、コンピューター管理型メディアとしてのゲーム機やスマホ、タブレットなどの普及が始まった21世紀の今日、いっそうの研究と知識の普及が望まれている。なにしろタブレットの画面に出る映像情報は、テレビの映像と違い対話的、流動的である。いまや赤ちゃんの指先の指示にも反応、応答し、刺激的なお相手になる。つまり急成長中の赤ちゃんの脳、中脳に与える刺激度、興奮度は、テレビよりケタ違いに大きいのだ。「一人で夢中になっているから良い」と考えてタブレットを与える親は、我が子に向けるほほえみが、その子の頭と心の働きにどれほど大きな意味、価値を持つか知ってほしい。



ナルドの花たより

喜びは、分かち合えば、倍増します。
Joy multiplies when you share it!

(2017年9月24日)

祈りの沈黙の中でしか、神の声を聞くすべを学べません。

Only in the silence of prayer can you learn to listen to the voice of God.

(2017年10月3日)

分かち合うためには回心が必要であり、これこそが課題です。

Sharing requires conversion, and this is a challenge.

(2017年10月16日)

神のやさしさに導かれるままに任せましょう。そうすれば、皆さんの信仰によって世界は変わりうるのです。

Let yourself be guided by the tenderness of God so that you may transform the world with your faith.

(2017年10月19日)

イエスはわたしたちに、暗闇に輝く光をお与えになりました。この光を守らなければなりません。この光こそ、わたしたちに託された最高の宝です。

Jesus gave us the light which shines in the darkness. Defend and protect this light: it is the greatest treasure entrusted to you.

(2017年10月23日)

カトリック中央協議会 教皇フランシスコのツイート (邦訳) より



2017年度 第3回小教区評議会 議事録

日時：2017年10月8日 12:00~13:00

1. 主任司祭の挨拶
2. 協議事項
 - (1) 10年後を見据えた六甲教会の重点課題について。
 - (2) 年間行事予定の作成について。
 - (3) 2018年度予算作成について。
3. 報告事項
 - (1) 地区役員会報告
 - (2) 典礼奉仕者の集い (9/10)
 - (3) BBQ大会 (9/17)
 - (4) 東ブロック会議 (9/24)
 - (5) 10月度神戸地区宣教司牧評議会 (10/1)
 - (6) 三日月会総会 (9/18)
 - (7) 施設管理部報告

第4回小教区評議会は12月17日(日)12時より信徒会館第4会議室

<行事報告>

典礼奉仕者の集い（9月10日）

9月10日、典礼奉仕者の集いがありました。

予想を超える50名以上の出席者に混じり、この夏、奉仕者の扉を叩いたばかりの私も出席させていただきました。

始めに、アルフレド神父さまのお話。イグナチオの霊操について、配られたプリントに沿って、ひとつずつ詳しく説明してくださいました。《霊操》という言葉に、今まで、少なからず近寄りたさを感じていましたが、今回のお話しはとても分かりやすく、これから、読み進めて行きたいと思っています。

そして、少人数グループに分かれての分かち合いのテーマは《祈り》。祈りの思い、時間、場所、方法など、私にとっては初めて言葉を交わす方も多く、たくさんの気づきがありました。我流を反省すると共に、皆さまに教えていただいたことを自分なりに実践して行きたいと思えます。

その後の全体での分かち合いでは、グループごとに発表があり、更にたくさんの視点に考えさせられました。ひとつひとつを文字にするのは難しいのですが、このような機会が与えられたことにとっても感謝しています。

神父さま そして ご一緒させていただきました皆さま、本当にありがとうございました。

(三垣)

～．

<行事報告>

ユスト高山右近列福記念講演会（9月16日）

大型台風18号が近づきつつある9月16日の午後、川村信三神父（上智大教授）をお迎えして講演会が開かれました。生憎の雨空でしたが120余名の参加がありました。

前半は学生相手に講義慣れておられる神父様らしく、ユーモアを交えてのお話でした。右近は12歳の時に父ダリオの影響を受けて受洗、若き頭首になるや和田惟政との争い（右近は謀反人？）とその後の成長＝ミセルコルディアへの積極的参加、下克上の時代に信長と村重のはざまでの悩み

（右近は不忠義者？）、西国進出の要地であり門徒対策の要・高槻に配置されることの意味、山崎と賤ヶ岳での武将としての対照的な姿（右近は敗走者？）、大坂の平和のうちにあって千利休とキリシタンの仲間との交わり（右近は茶人？）、秀吉のバテレン追放令の際に右近のみが信仰と武将の択一を迫られた理由（右近は信仰者？）、30年に及ぶ金沢での生活とその前後2回の「霊操」体験（右近は祈りの人？）、配流地ルソンにおける死（右近は殉教者？）。… 60分の密度の濃い、解りやすく力強いお話でした。

後半は熱心な質疑応答がありました。大名の石高、聖人と奇跡の関係、16世紀は一向宗・法華教・キリシタンといった「主信仰（他信仰に対する）」の時代、ミサと茶道の所作の類似、茶室に見る超自然と自然との調和を目指す姿勢、福者や聖人には信仰と生活者としてのギャップ感があるのか、金沢での新信者の霧消と伝統的キリシタンとの違いは秘跡体験を記憶に「痕跡」として持つのかどうか・・・ 関心は広がりまた尽きませんでした。あつという間に予定時間を過ぎてしまいお開きになりました。

連休で混雑し、また悪化する天候の中で来神された神父様、有難う



間が自力で神になろうとした結果であり、それは現在の諸状況に通じている。

神父様の指摘は、するどく、わたしたちにあらためて回心をうながすものであった。

(木鎌)



10月14日、時折小雨が降る土曜日に、教会で黙想会がありました。仕事と日々の家事に追われる毎日を送っているのも、とても疲れていました。当日は、末娘の運動会の日でしたが、私には心静かに祈る時が必要と思い、応援を上の子に託して久々に黙想会に参加しました。講話の後の祈りの時間は少しうとうとしてしまいました。

梶山神父様のお話を伺って、私はミサに授かることが好きだということ、キリストの体をいただくことでキリストの一部となって人のために尽くすことができること(本当は、してもらってばかりですが…)、私にとって信仰はかけがえのないものであること、を再認識できました。「ミサに授かり今を生きることは、常に神の手の中にあるということであり、ミサは食事であり感謝だ」と言われたことが印象的でした。

休日は、いろんな楽しい誘惑や予定がありますが、私にとっては、ミサを最優先にしてキリストの御体をいただくことで、また原点に立ち帰り一週間を踏ん張れるのだと感じました。思いがけず友人も参加していて、黙想会で共に祈ることができたことは、大きな恵みであり喜びでした。

年配の方々がたくさん参加されている中、若い人たちも一人でも多く参加できれば、それぞれの時宜に適った恵みや気づきがいただける“よい時”になるのでは…と思いました。

末娘の運動会を参観できず、その子には申し訳なかったのですが、心が癒される一日でした。

遠くから来て黙想会を指導して下さいました梶山神父様に感謝いたします。

(高橋)

~~~~~

### 《各部だより》 各専門部会の活動をお知らせいたします

#### 📍 地区会

11月18日(土)大掃除後 役員会

#### 📍 三日月会

11月20日(月)14:00 ミサと懇親会

~~~~~

《お知らせ》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

◆ 幼児を持つ親の集まり ◆

日	時	11月19日	10時ミサ後
場	所	第5会議室	
対	象	未就学児のお母さま・お父さま	
お問い合わせ		アルフレド神父	高橋恵美

未就学のお子様をお持ちのご両親を対象に、日ごろの出来事や子育てのお悩みを、「気軽にわいわいお話しする会」を開きます。どなたでもご参加ください。

◆ 社会活動部より ◆

11月1日(水)10時 手芸の集い(第1、第2会議室) どなたでも参加ご自由です。

11月3日(金)初金ミサ後 高山神父さまの学習会(第4会議室)

11月12日(日) チャリティーバザー 各ボランティアグループの出店(第3&第4会議室)

参加団体： コンゴの子ども教育支援・ラリグランス（ネパール支援）・
かなの家（知的ハンディの仲間たちの生活支援）・
東条湖の家（障害者への生活支援）
こどもの里（経済的にも精神的にも苦しい立場におかれている子どもへの支援）
ラハトガ（カンボジア子ども支援）・
手芸部（教会チャリティーバザー献金）・
アンチラドミニ（かけこみ寺支援）

11月19日(日)10時ミサ後 イグナチオホールでバザーに来られなかった人のために
最終チャリティーミニバザーを行います。

※ この時の売上金もチャリティーバザーの献金先に寄付されます。

11月24日(金)9時半 ともしび会（イグナチオホール台所）
施設の子どもたちへのケーキ作り



七五三祝福式

11月19日(日)10時ミサ中

祝福をご希望の方は教会受付までお申し込み下さい。



神戸地区養成研修会 “ユスト高山右近の靈性に学ぶ”

「祈りの人となろう」

祈りと分かち合い

2017年11月19日(日) 13:00~16:00

場所：カトリック神戸中央教会

指導：アルフレド・セゴビア神父

※ なるべく11月5日までに養成委員までお申し込みください





みんなの広場

11月1日

11月1日、「諸聖人」の祭日、世上のいわゆる「聖人・君子」ではない。肉体の死後神の至福に与っている人々のことのことをいう。即ち「聖人」にならなかつたら、他人事では済まされない究極の一大事である。それで神は最後の手段を設けてくださった。「煉獄」。日常殆ど意識することのない、あるいは殊更に避けているであろう現実を、今日は篤と顧みてみよう。

人間の社会は刻々変化する。名句に詠まれた「貫く棒の如きもの」を想う。

ヨハネ 三好榮之助

バザーからのお願い



① 出品が減っています

世間の情勢が変わって、贈答品や中元歳暮の風習が少なくなり各家庭に出品できるものが少なくなったのでしょうか。提供品が品薄です。皆様のご協力をお願いします。

② 売れ残り処理にはお金がかかります

押入れの片付けのための品物ではなくて、自分が欲しくなるようなものを出して欲しいのです。100均ショップで手軽に買えるようになり売れ残りも増えました。以前は残品を再利用してくれる事業者がありましたが、最近は無くなり売れ残りの処理にはお金がかかります。厚かましいお願いですが、よろしくをお願いします。

③ 参考までに困るのは

自宅で飾っていた大きな額、重たい置物、半端な食器セット、思い出の骨董品、黄ばんだシーツ、肌着、化粧品、薬、期限切れの食品などです。大切な遺品のメダイやロザリオも売らないでください。

～11月のミサの時間～

11月1日	諸聖人ミサ	7:00	10:00
11月2日	死者の日ミサ	7:00	10:00
11月3日	初金曜日ミサ	7:00	10:00
11月12日	主日のミサ (チャリティバザー当日のミサ)	7:00	<u>9:00</u>





～ 教会事務所休み ～
11月23日(木) 勤労感謝の日

教会報 12月号の発行は、12月3日(日)です。
原稿は11月19日(日)までに教会受付へご提出
ください。FAX 及びメールでも受付いたします。

(広報部)

<http://www.rokko-catholic.jp>

カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会
〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21
電 話 078-851-2846
F A X 078-851-9023
発 行 責 任 者 アルフレド・セゴビア
編 集 広 報 部